サウンドと体感がシンクロするスポーツマフラー

米国のアウディ専門ブランドが造る チューニングプロダクト

写真●田村 弥　文●山田弘樹

STaSIS

Audi R8 4.2FSI quattro

AUDI BRANDS

ステイシスはアウディ専門のアメリカンチューナーとして、マニアックなチューニングプロダクトを取り揃え、リアルなスポーツ性能を注ぎ込む。そのマフラーを装着したR8から、ステイシスの本格的な製品造りを感じ取ってみたい。

ルックスはノーマルのまま 性能重視のスポーツマフラー

高性能ヨーロピアンカーの販売からカスタマイズまでを手がけ、アウディユーザーにもお馴染みのボンドショップ浦和が、アウディR8に耳慣れないマフラーシステムを導入したという。その名は「ステイシス」。調べてみるにそれは北米のアウディ専門チューナーであり、今回紹介するマフラーの他にも、エンジンメニューや足回り、マニアックなパーツとしては機械式LSD、かたやオリジナルホイールまでと、幅広い展開を見せているブランドであった。

「今回はR8にお乗りのお客様から直接要望があり、私どもがステイシスに連絡する形でマフラーをインポートしました」そう語るのはボンドでメカニックを務める伊藤サン。同社では、こうした海外の未導入ブランドにも対応をしてくれる。

ノーマルのエア・アクチュエーター式消音フラップを最初から殺しているため、アイドリングから殺して3000rpmまでのサウンドはやや大きく、室内には乾いた排気音が響いている。これだけ聞いていると後等生なR8が、なにやら凶暴なチューンドカーになったかのような印象を受けたが、驚いたのはそこからだった。

豹がのどを鳴らすかのような重低音は、エンジンの回転が4000rpmを越えた当たりから、一気にトーンを整え始める。スロットルボディから流れ込む大量の吸気が、フワッと一瞬タメを作ったあと、かん高く雑味のないサウンドが、"クワァッー"と鳴り響いて行くのだ。

エンドピースのみの交換（テールカッターに至っては純正を流用）とあって、6000rpm以降はエンジンサウンドがエキゾーストノートを凌駕し出す。しかしR8の精緻なメカニカルノイズは元来鑑賞に堪えうる美しさを持っており、ステイシスの高周波からバトンを受け取っても、その高揚感は失われるどころか右肩上がりに高まっていく。

通常この手のスーパースポーツに装着されるエキゾーストシステムは、サウンドばかりが先行して、後からクルマ本来のスピードが追いついてくるものが多い。しかしこのシステムは中速トルクを犠牲にしない特性となっているため、体感と聴感にズレが少ない。アクセルを踏み込んだ瞬間から420psのパワーを確実に路面へとたたきつけるR8の強烈なトラクション性能と、突き抜けるエキゾーストノートがシンクロする様は見事で、ドライバーとしてその快感は痛快この上ない。

それでいて、外から聞こえる音量がジェントルなのにも驚いた。キレのあるサウンドを奏でながらも、絶対音量や音圧は低い。見る者に不快感を与えない振る舞いは都会的で、R8のキャラクターとマッチしている。

ただここまでの性能を見せられると、チューニングへの欲望が掻き立てられるのも事実。これにエキマニやキャタライザーを装着したら一体どうなるだろう。その快音とパワー感が、トップエンドまでよどみなく続くのではないかと、ついつい想像してしまう。快楽を追い求めるか、バランスを取るか。オーナーには一番の悩み所なのではないだろうか。

←↑試乗車はR8のためマフラーはフルカバーされているが、リアバンパーのメッシュ部分からブランドロゴの入るパイプが覗く。しかし、排気音はチューンドカーらしい官能的な音量を響かせ、気持ちを昂揚させる

ボンドショップ浦和

埼玉県さいたま市桜区神田64-1-1　TEL048-851-4411

www.hosokawa.co.jp　本10:00〜20:00　水無し

←↑車両販売だけでなく、最新のスタイルアップにも敏感なボンドショップ浦和は、ステイシスのように、これまで取り扱いのないブランドでも要望があれば快く対応してくれる。チューニングでもスタイルアップでも、そしてメンテナンスまでも頼りにできるからこそ、多くのユーザーが通い続けるプロショップだ